

令和 6 年 6 月 20 日現在

機関番号：24501

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2023

課題番号：20K12832

研究課題名（和文）脱植民地期フランスの政治主体論－エティエンヌ・バリバルを中心に

研究課題名（英文）Political subjects and Etienne Balibar's philosophy in the age of French decolonization

研究代表者

太田 悠介（Ota, Yusuke）

神戸市外国語大学・外国語学部・准教授

研究者番号：70793074

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、仏領植民地の独立後、多様な出自を持つ住民層が混在するポストコロニアル時代を迎えたフランスにおいて、いかなる政治主体が形成されるのかを思想史の観点から考察することである。現代フランスの哲学者エティエンヌ・バリバルの著作および旧仏領植民地出身の移民を対象とする文献を主たる先行研究として考察を進めた。複合的なアイデンティティに特徴づけられる旧仏領植民地出身の住民層と従来のフランスの民衆層との間にある争点と接点について、特に反人種主義とインターセクショナル・フェミニズムの視点を取り入れながら多角的に分析した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

旧仏領植民地出身者とその子孫に焦点を当てる移民研究と哲学者エティエンヌ・バリバルの思想研究を架橋することによって、脱植民地期フランスに特有の複合的なアイデンティティを備えた政治主体論を考察した。旧仏領植民地出身の移民労働者に対する人種差別、移民第二世代の権利要求運動、公立学校におけるムスリムの子生徒のスカーフの是非といったポストコロニアル時代から現代へと至るフランス特有の社会問題を思想史の観点から解明し、その成果を論文、図書、口頭発表を通じて公表した。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to examine, from the perspective of the history of ideas, the formation of political subjects in France of the postcolonial era, in which residents of diverse origins are mixed after the independence of the French colonies. The study is based on the works of contemporary French philosopher Etienne Balibar and researches on immigrants from the former French colonies.

Both oppositions and connections between the former French colonial population characterized by a complex identity, and the traditional French population are analyzed from multiple perspectives, particularly from the perspectives of antiracism and intersectional feminism.

研究分野：思想史・フランス思想

キーワード：エティエンヌ・バリバル ポストコロニアリズム 政治主体 反人種主義 インターセクショナル  
イ 脱植民地化

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

アルジェリア戦争（1954-1962）の終結をひとつの重要な画期として、植民地帝国の時代に終止符が打たれたフランスでは、旧仏領植民地出身の住民がその内部に混在するというポストコロニアル時代に特有の状況が現れる。北アフリカを中心とする移民労働者への人種差別、彼らの子供世代にあたる移民第二世代の権利要求運動、公立学校におけるムスリムの女子生徒のスカーフ着用をめぐる議論などが、移民社会化するフランスの新たな課題として、この時期に相次いで浮上した。本研究はこのような社会状況を背景として、脱植民地期フランスにおける政治主体の思想史的な解明を目指す。1970年代から移民社会フランスの諸課題を取り上げてきた現代フランスの哲学者エティエンヌ・バリバルの思想の考察に着手した。

フランスの移民史の先駆的な研究としては、歴史家ジェラルド・ノワリエルによる『フランスという坩堝——19世紀から20世紀の移民史』（1988）がある。しかし、時代的な制約もあり、同著では北アフリカやブラックアフリカからの脱植民地期の移民については、東欧や南欧を中心とするヨーロッパ系の移民集団との共通点が重視される一方で、脱植民地期の移民の特質は必ずしも主題化されていなかった。バリバルに関する先行研究としては、アメリカの社会学者イマニュエル・ウォーラーステインとの共著『人種・国民・階級』（1988）を中心として人種主義やナショナリズムの理論的な分析が進んできたが、脱植民地期フランスとの関わりについては挿話的に言及されることが多かった。

以上のような社会的な背景と先行研究の状況を踏まえ、本研究は移民研究と思想研究というふたつの領域を架橋するかたちで本研究の問いを設定した。すなわち、脱植民地期フランスにおける政治主体はどのように定義されるかを思想史の観点から考察するという問いである。『フランスという坩堝』以来、近年目覚ましく進展しつつある移民史研究、そして『人種・国民・階級』以降に執筆されたバリバルの著作群を研究のための資料とすることで、この問いを考察することは十分可能であると考えた。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、バリバルの思想を主たる参照軸とし、アルジェリアなど仏領植民地が独立を果たした脱植民地期から現代のフランスにおいて、政治主体がどのように形成され、またどのように変化してきたのかを思想史の観点から解明することである。

## 3. 研究の方法

以上の研究課題の解明にあたり、2020年度から2023年度の4年間に係る資料の調査・収集・読解の作業を行う。『人種・国民・階級』以降に発表された『民主主義の境界』（1992）、『大衆の恐怖』（1997）、『市民主体』（2011）、『世界』（2012）、『複数の普遍』（2017）を中心とするバリバルの著作群が基礎文献となる。あわせて近年研究が進んでいるバリバルの思想に関する二次文献を収集し、読解を進める。移民研究についてはすでに数多くの先行研究があるが、バリバルが著作で言及する資料を重点的に検討する。さらに、本研究課題の背景となる移民労働者への人種差別、移民第二世代の権利要求運動、ムスリム女性のスカーフ論争という重要なトピックに関連する先行研究を広く収集し、脱植民地期の多様化した民衆層の多角的な考察を進める。二次文献を中心とする最新の資料の収集・調査のために、長期休暇中に渡仏し、フランス国立図書館を利用する。

## 4. 研究成果

2020年度から2023年度の主な研究成果は以下の通りである。

2020年度はコロナ禍により、夏季に予定していたフランスでの調査を取りやめざるをえなかった。現地調査の翌年以降の再開を視野に入れて、基礎的な文献の考察を進めた。同年にアメリカから始まったブラック・ライブズ・マター運動がフランスにも波及し、バリバルもまたフランスでの運動に言及していることを踏まえ、ブラックアフリカ系移民とバリバルの政治主体論の関係を考察した。東京外国語大学「Black Lives Matter 運動から学ぶこと」連続セミナーの招聘を受け、第3回「社会の中の分断と融和」において、フランスのBLM運動の現状、旧仏領植民地出身者に対する現代フランスの人種差別問題、バリバルの反人種主義論について口頭発表を行なった。また、上記の口頭発表に関連して、東京外大の中山智香子教授とともに、バリバルとウォーラーステインの対談の翻訳および解題を執筆した。

2021年度は前年度の口頭発表をもとにバリバルの人種主義論および反人種主義論についての研究論文を執筆した。同論文は武内進一・中山智香子編『ブラック・ライブズ・マター運動から学ぶ』に所収された。コロナ禍のために前年度と同様にフランスでの現地調査を中止した。

2022年度はアントニオ・ネグリおよびマイケル・ハートの両者とバリバルとの比較を通じて、バリバルの脱植民地期から現代に至る政治主体論の特質を検討した論文を発表した。バリバルの整理によれば、現代フランスの黄色いベスト運動とBLM運動はそれぞれ「社会的な暴

力」と「人種的な暴力」への異議申し立てとされるが、論文ではバリバルがこれら二つの暴力に対抗する両社会運動の連携の可能性を探っていることを指摘した。また、現代フランスのエコロジー論において、近年顕著となっている脱人間主義の潮流と本研究課題の政治主体論との関連を論じた論文も執筆した。

2023年度は、ムスリムの女性が纏うスカーフをめぐる1980年代末以降のフランスのスカーフ論争について、当事者の女性の主体性に着目した口頭発表を日本語およびフランス語で行った。雑誌『ふらんす』の連載「政治のオルタナティブを求めて」では、反人種主義、BLM運動、インターセクショナルリティといった本研究課題に関連するテーマを取り上げ、一般の読者向けの記事を執筆した。最終年度はこれ以外にも書評、シンポジウムのコメンテーターなどを担当したが、いずれにも本研究課題の内容をと成果の一部が反映されている。

(1) 雑誌論文 (8件)

1. 太田悠介「郊外暴動の先へ」(連載「政治のオルタナティブを求めて」第6回)『ふらんす』98巻9号、2023年9月、68-69頁、査読なし。
2. 太田悠介「『人種』なき時代の人種主義」(連載「政治のオルタナティブを求めて」第5回)『ふらんす』98巻8号、2023年8月、68-69頁、査読なし。
3. 太田悠介「インターセクショナルリティ」(連載「政治のオルタナティブを求めて」第4回)『ふらんす』98巻7号、2023年7月、68-69頁、査読なし。
4. 太田悠介「ブラック・ライヴズ・マターと共和国」(連載「政治のオルタナティブを求めて」第3回)『ふらんす』98巻6号、2023年6月、68-69頁、査読なし。
5. 太田悠介「食肉の未来」(連載「政治のオルタナティブを求めて」第2回)『ふらんす』98巻5号、2023年5月、68-69頁、査読なし。
6. 太田悠介「生物多様性と人間」(連載「政治のオルタナティブを求めて」第1回)『ふらんす』98巻4号、2023年4月、78-79頁、査読なし。
7. 太田悠介「ポスト・コロナの民主主義へ——ネグリ=ハートとバリバル」『福音と世界』77巻8号、2022年、12-17頁、査読なし。
8. 太田悠介「持続可能な食肉からエコロジー社会へ——マリー=モニク・ロバン『パンデミックの生産』の世界」『現代思想』50巻7号、2022年、194-206頁、査読なし。

(2) 学会発表 (5件)

1. Yusuke Ota, «L'intersectionnalité et la philosophie d'Étienne Balibar. Réflexion sur les femmes minoritaires en France et au Japon», Cycle de séminaires, Axe "Décentrements", Université d'Orléans (France), 2024年3月21日。
2. 太田悠介「フランスのスカーフとインターセクショナルな反人種主義——エティエンヌ・バリバルの境界論に寄せて」社会思想史学会第48回大会セッションC「ボーダーとレイシズムを考えるために」、南山大学、2023年10月28日。
3. 太田悠介「松葉類氏と渡名喜庸哲氏の提題についてのコメントと質問——ポスト・マルクス主義の立場から」レヴィナス協会第6回大会シンポジウム「レヴィナスと政治」、神戸研究学園都市大学交流推進協議会 (Unity)、2023年9月16日。
4. 太田悠介「インターセクショナルな哲学は可能か——エティエンヌ・バリバルとフランスのスカーフ」海浜歴史社会学研究会、アンカー神戸、2023年2月17日。
5. 太田悠介「反人種主義のフランス思想——エティエンヌ・バリバル」東京外国語大学「Black Lives Matter運動から学ぶこと」連続セミナー第3回「社会の中の分断と融和」、東京外国語

大学、2020年12月23日。

(3) 図書 (1件)

1. 太田悠介「ポストコロニアル時代フランスの人種主義と反人種主義——エティエンヌ・バリバルを手がかりに」武内進一・中山智香子編『ブラック・ライヴズ・マターから学ぶ——アメリカからグローバル世界へ』、東京外国語大学出版会、2022年、320-343頁、査読なし。

(4) 知的財産権 (0件)

(5) その他 (4件)

1. 太田悠介 (書評)「竹沢泰子、ジャン＝フレデリック・ショブ編『人種主義と反人種主義——越境と転換』(京都大学学術出版会、2022年)」『女性とジェンダーの歴史』11巻、2024年2月、75-77頁、査読なし。
2. 太田悠介 (書評)「エマヌエーレ・コッチャ『メタモルフォーゼの哲学』(勁草書房、2022年)」『週刊読書人』2023年3月3日、査読なし。
3. 太田悠介 (講演)「生物多様性とエコロジー社会——フランスから考える」こうべ生涯学習カレッジ、神戸市生涯学習支援センター (コムスタこうべ)、2022年10月5日。
4. (翻訳・解題) エティエンヌ・バリバル、イマニュエル・ウォーラーステイン (太田悠介・中山智香子訳・解題)「人種主義を乗り越えることはできるか——エティエンヌ・バリバルとイマニュエル・ウォーラーステインとの対話」『神戸外大論叢』73巻、2021年、69-100頁、査読あり。

5. 研究組織

研究代表者：太田 悠介 (Yusuke OTA)

神戸市外国語大学・総合文化コース・准教授

研究者番号：70793074

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計11件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 太田悠介	4. 巻 98(4)
2. 論文標題 生物多様性と人間（連載「政治のオルタナティブを求めて」第1回）	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 ふらんす	6. 最初と最後の頁 78-79
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 太田悠介	4. 巻 98(5)
2. 論文標題 食肉の未来（連載「政治のオルタナティブを求めて」第2回）	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 ふらんす	6. 最初と最後の頁 68-69
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 太田悠介	4. 巻 98(6)
2. 論文標題 ブラック・ライヴズ・マターと共和国（連載「政治のオルタナティブを求めて」第3回）	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 ふらんす	6. 最初と最後の頁 68-69
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 太田悠介	4. 巻 98(7)
2. 論文標題 インターセクショナリティ（連載「政治のオルタナティブを求めて」第4回）	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 ふらんす	6. 最初と最後の頁 68-69
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 太田悠介	4. 巻 98(8)
2. 論文標題 「人種」なき時代の人種主義（連載「政治のオルタナティブを求めて」第5回）	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 ふらんす	6. 最初と最後の頁 68-69
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 太田悠介	4. 巻 98(9)
2. 論文標題 郊外暴動の先へ（連載「政治のオルタナティブを求めて」第6回）	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 ふらんす	6. 最初と最後の頁 68-69
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 太田悠介	4. 巻 11
2. 論文標題 （書評）竹沢泰子、ジャン＝フレデリック・ショブ編『人種主義と反人種主義 越境と転換』（京都大学 学術出版会、2022年）	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 女性とジェンダーの歴史	6. 最初と最後の頁 75-77
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 太田悠介	4. 巻 -
2. 論文標題 （書評）エマヌエーレ・コッチャ『メタモルフォーゼの哲学』（勁草書房、2022年）	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 週間読書人	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 太田悠介	4. 巻 77(8)
2. 論文標題 ポスト・コロナの民主主義ヘーネグリ=ハートとバリバル	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 福音と世界	6. 最初と最後の頁 12-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 太田悠介	4. 巻 50(7)
2. 論文標題 持続可能な食肉からエコロジー社会へ=マリー=モニク・ロバン『パンデミックの生産』の世界	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 194-206
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 エティエンヌ・バリバル、イマニュエル・ウォーラーステイン (太田悠介・中山智香子訳・解題)	4. 巻 73
2. 論文標題 人種主義を乗り越えることはできるか=エティエンヌ・バリバルとイマニュエル・ウォーラーステインとの対話	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 神戸外大論叢	6. 最初と最後の頁 69-100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件 (うち招待講演 3件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 太田悠介
2. 発表標題 松葉類氏と渡名喜庸哲氏の提題についてのコメントと質問=ポスト・マルクス主義の立場から
3. 学会等名 レヴィナス協会第6回大会シンポジウム「レヴィナスと政治」(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 太田悠介
2. 発表標題 フランスのスクーフとインターセクショナルな反人種主義ーエティエンヌ・バリパールの境界論に寄せて
3. 学会等名 社会思想史学会第48回大会セッションC「ボーダーとレイシズムを考えるために」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 太田悠介
2. 発表標題 L'intersectionnalite et la philosophie d'Etienne Balibar. Reflexion sur les femmes minoritaires en France et au Japon
3. 学会等名 Cycle de seminaires, Axe Decentrements", Universite Orleans (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 太田悠介
2. 発表標題 インターセクショナルな哲学は可能かーエティエンヌ・バリパールとフランスのスクーフ
3. 学会等名 海浜歴史社会学研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 太田悠介
2. 発表標題 反人種主義のフランス思想ーエティエンヌ・バリパール
3. 学会等名 東京外国語大学「Black Lives Matter運動から学ぶこと」連続セミナー第3回「社会の中の分断と融和」(招待講演)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 太田悠介	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東京外国語大学出版会	5. 総ページ数 384
3. 書名 武内進一・中山智香子編『ブラック・ライヴズ・マターから学ぶ アメリカからグローバル世界へ』（担当箇所「ポストコロニアル時代フランスの人種主義と反人種主義 エティエンヌ・バリバルを手がかりに」）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------